

2020~2021 年度

大船渡西ロータリークラブ会報



七福人



RI 会長テーマ

会 長 高木 久子

副会長 齊藤 俊明

幹 事 山口 徹

= 会長指針 =

途中困難最後必勝

・ ・ ・ 例 会 記 録 ・ ・ ・

10月第2週例会 2020年10月 8日(木)

ソング : 我等の生業 ボックス : 26,000円 (報告者 門田 崇会員)

お客様紹介 : 大船渡魚市場専務 佐藤光男様 大船渡 RC 田村 満様

本日出席率 : 63.64% 前回修正後81.82% (メンバー13名) (報告者 紀室綾子会員)

★ 会長の時間 : 高木久子会長



新型コロナウイルスについてのお話を、というご希望がありましたのでお話しさせていただきます。

ヒトに感染するコロナウイルスは一般的な風邪のウイルス4種類と、動物から感染する重症肺炎ウイルス2種類が知られています。

ヒトに日常的に感染する4種類のコロナウイルスは一般風邪の10~15%(流行期35%)を占めています。冬季に流行のピークが見られ、ほとんどの子供は6歳までに感染を経験します。多くの感染者は軽症ですが、高熱を引き起こすこともあります。

重症急性呼吸器症候群コロナウイルス (SARS-CoV) は、コウモリのコロナウイルスがヒトに感染して重症肺炎を引き起こすようになったと考えられています。2002年に中国広東省で発生し、2002年11月から2003年7月の間に30を超える国や地域に拡大しました。2003年12月時点のWHOの報告によると疑い例を含むSARS患者は8,069人、うち775人が重症の肺炎で死亡しました(致死率9.6%)。当初、この病気の感染源としてハクビシンが疑われていましたが、今ではキクガシラコウモリが自然宿主であると考えられています。雲南省での調査では、SARS-CoVとよく似たウイルスが、今でもキクガシラコウモリに感染していることが確認されています。

中東呼吸器症候群コロナウイルス (MERS-CoV) は、ヒトコブラクダに風邪症状を引き起こすウイルスであるが、ヒトに感染すると重症肺炎を引き起こすと考えられています。最初のMERS-CoVの感染による患者は、2012年にサウジアラビアで発見されました。これまでに27カ国で2,494人の感染者がWHOへ報告され(2019年11月30日時点)、そのうち858人が死亡しました(致死率34.4%)。

感染症法の分類	
分類	感染症名
1類	エボラ出血熱、ペスト、ラッサ熱など
2類	結核、SARS、MERS、鳥インフルエンザ(一部)など
3類	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフスなど
4類	E型肝炎、A型肝炎、狂犬病、マラリアなど
5類	インフルエンザ、梅毒、はしかなど
新型インフルエンザ等	
指定感染症(政令で指定。最長2年間)	

新型コロナウイルス(COVID-19)は当初、致死率の高いSARSの第二弾が発生したと考えられ、世界中に混乱を招くこととなりました。(SARS IIと呼ばれていました)日本においても、感染症法に指定し、SARS、MERS同様に第二類に分類しました。(致死率が高い順に、1類~5類に分類されています。)2類指定の場合、感染者には感染症指定医療機関への入院措置がとられ、陰圧管理された病室で治療を受けることになります。同時に疫学調査が行われ、感染経路や接触者が特定されます。(今回の新型コロナについては、陽性者急増の為、特例措置が取られ、無症状、軽症者については、指定された宿泊所や自宅にて処置を行うこととなりました。)

現在においては、SARS、MERS に比べ、致死率が低い（日本 0.02%、世界 0.03%）ことが分かってきました。政府、官庁関係では、指定感染症 2 類から、5 類へ下げる議論がなされるようになってきました。ウィズコロナと言われるように、現状での完全収束は不可能の状況となっており、このまま 2 類に配置している状態が長く続くと、経済危機の懸念があります。

アメリカ、イギリスのメーカーによるワクチン開発や治療薬の研究も進められておりますが、国内においてもアビガンの承認が待たれています。

ワクチンや治療薬の承認が進むことで、いずれ、インフルエンザと同じ扱いの 5 類になると推測します。新型コロナウィルスは、他のコロナウィルス同様に肺を痛めつけます。重症化すると、心臓も弱ってしまいます。予防法は、風邪、インフルエンザと同様にうがい、手洗い、人混みを避ける。もしくはマスク着用ということになると思います。そして、養生法としては、まずは、肺（呼吸力）を強くするという事になります。呼吸力が弱まると、血液の循環が悪くなり、全身の臓器（内臓）に血液（栄養）が届きにくくなり、抵抗力が低下してしまいます。重症な感染者が稀に血栓や臓器不全になってしまうのは血流低下が原因です。

肺の力をつける方法はさまざまあります。腹式呼吸、ヨガ、太極拳、ストレッチ、体操、など有酸素運動です。また、漢方薬も得意分野ですので、転ばぬ先の杖として、お試ししてはいかがでしょうか。

コロナに接触して感染する人、しない人、感染しても症状が出る人、出ない人の違いは？

コロナ騒動が起きてから、免疫力への関心が高まっています。免疫とは「疫病」から「免」れるということですから、注目されるのは当然といえます。コロナウィルスに接触しても、感染する人、しない人、コロナに同じように感染しても、症状が出る人と出ない人がいます。その違いは免疫力にあるのではないかというのが、気になるところではないでしょうか。

免疫に関する研究は近年、急速に進んでいて、いろいろなことがわかってきています。その一つは、「自然免疫」と「獲得免疫」の役割についてです。自然免疫は生まれつき備わっている仕組みです。細菌、ウイルスといった外敵が体内に入ってくると、白血球中のマクロファージ、樹状細胞、ナチュラルキラー細胞などが、それらに対抗して活躍します。

もう一つの免疫の仕組みである獲得免疫は、外敵との戦いによって身につけていく能力で、ヘルパーT 細胞、キラーT 細胞、B 細胞などが担当します。西洋医学ではこの獲得免疫が注目されてきました。特定の病原体に対して、画期的な戦い方をします。天然痘をはじめとする各種ワクチンは、人工的に獲得免疫をもたらす方法です。それによって救われた命は計り知れません。ワクチン開発の目的は、ここにあります。

ただ、近年は自然免疫が見直されるようになってきています。マクロファージにしても、樹状細胞にしても、外敵に見境なく飛びかかるのではなく、精巧な病原体センサーを何種類も備え、相手の正体を把握し、正確に外敵（異物）を排除します。

私たちが「免疫力を高めよう」といったときは自然免疫のことです。もともと持っている免疫の力を高めよう、ということなのです。しかも、それが獲得免疫も含めた全体の免疫力を高めることにつながります。私はコロナに感染する人、しない人、感染しても症状が出る人と、出ない人の違いはこのへんにあるのではないかと思います。

東洋医学の世界では免疫というのは「気」と捉えています。病原体（病邪）に対抗するのは「気」の働きです。気は東洋医学の中心的概念ですが、一般の方にはわかりにくいかもしれません。気の力が低下した状態を「気虚」と呼んで、それを改善させるのが「補気」です。

東洋医学は 2 千年の歴史を通して自然免疫に注目してきました。補気とはつまり、自然免疫を高めることなのです。「気虚」「補気」のキーワードは「肺」を強める事です。

免疫学の大家、故・安保徹先生は「自然の摂理に反した生き方をしていれば、免疫力が落ちてしまう」とおっしゃっていました。コロナに負けないためには、まずは自分の生き方を見直し、自然免疫を高めることが大切なかもしれません。「肺」と「心臓」を強める漢方薬あります。



幹事報告



- 1 ガバナー事務所より 10月のロータリーレート1ドル105円の連絡あり
- 2 ガバナーエレクト事務所より
 - ・ 事務所開設の案内が届いています。10月1日開設
 - ・ 次年度クラブについてのお伺いが届いています。締切り 11月25日また、次年度クラブ名簿はでき次第提出してくださいとの事。
- 3 大船渡商工会議所より
新型コロナウイルスの影響に関するアンケートのお願いが届いています。締切り 10/19(月)
日本赤十字社岩手支部からとして、活動資金のご協力のお願いが届いています。



本日のプログラム



職業奉仕アワー

★ 大船渡市魚市場専務 佐藤光男様講話



今日は秋刀魚の話をする事でしたので。

秋刀魚の漁場は主に東経163度付近、根室から1,500kの地点

昨夜は、150度ラインで30t獲れたとの事で、明後日当たり各地で水揚げがあるかも。この地点へ行くのは、小型船では難しい。

秋刀魚の水揚げ量・・昭和26年平均2万トン 昨年は6千400トン

〃 金額・・平成30年初の30億越え 平均20億前後

大船渡市は8年間本州水揚げ1位 全国では、花崎漁港に次ぐ2位

今後の三陸海域 10月上旬来遊なし 11月上旬～中旬三陸海域よりも東を回遊する予想
やはり小型船の出港は難しい。

水揚げが無いと宅配も動いていない、他港では、宅配キャンセルも起きている。

来遊魚群は薄い 魚体：以前は140～160以上 今年は100～120gが主 140g越1割
160g越は0 なので脂はのついてなくてぼそぼそした感じ。餌としてイサダを食べているイメージ
だが、ロシア海域で甲殻類を食べ下がってくれば美味しい魚が来る。

三陸主要魚種の水揚げが悪い。道東のイワシを主に取引しながら、サンマの水揚げを待っている状況。